

# Responsible Care NEWS

2019 夏季号



レスポンシブル・ケア®



# 一般社団法人 日本化学工業協会 第28回定時総会が 開催されました



第28回となる日化協定時総会が、5月24日パレスホテル東京にて開催されました。

総会は、正会員数257名のうち、231名(委任状出席者124名を含む)の出席の下で開催されました。定款第16条の規定に従い、議長は淡輪会長が務める旨の報告を行い、淡輪会長が議長に就任して開会を宣言した後、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく、原案の通り承認されました。

## 議案

### 1. 報告事項

2018年度事業報告及び決算報告の件

### 2. 審議事項

第1号議案 理事補欠選任案の件

第2号議案 2019年度事業計画案及び収支予算案の件

開会にあたり、淡輪会長より、『昨年5月の会長就任以来、「操業および製品にかかわる安全の強化」、「新たな価値の創造と持続可能な社会の構築への貢献」、「社会とのコミュニケーション強化」という3つのポイントに沿って、幅広い施策を推進してきた。中でも、世間の関心の高さもあり、特に強く意識したポイントとしては、「持続可能な社会の構築への貢献」ということになる。特に、海洋プラスチック問題については、この1年の間にグローバルな環境課題として世間の関心がますます高まっており、本問題に対応するため、昨年9月に海洋プラスチック問題対応協議会(JaIME)が発足した。また海洋プラスチックゴミ問題とともに世界的な関心が高い地球温暖化問題に対しては、化学業界が一丸となり更なるCO<sub>2</sub>削減を進めるため、絶対量679万t削減を新たな目標に追加し、本年3月に公表した。絶対量の削減は、これまでに比べて次元の高い目標となっており、化学工業界にとって大きな転換点と言える。今後とも冒頭に示した3つのポイントに沿って幅広い施策を展開し、化学産業の発展のために尽力していきたい』旨が述べられました。(詳細次ページ)

## 議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。

## 報告事項 2018年度事業報告及び決算報告の件

議長の指示により、渡辺専務理事が、2018年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月8日の監事による監査を経て、5月13日開催の総合運営委員会、審議委員会、5月14日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を報告し、内容について説明を行いました。引き続き、監事を代表して中西義之監事が、5月8日に開催した監事会において、2018年度事業報告書、及び決算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

## 第1号議案 理事補欠選任案の件

次に議長の指示により、渡辺専務理事が、理事3名の選任につき、各人について、議場に諮りました。

後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。なお、今回選任された理事の任期は、他の理事の任期と同じとなります。

## 記

|    | 前任者   | 後任者   |            |
|----|-------|-------|------------|
| 理事 | 山本 謙  | 泉原 雅人 | 宇部興産株式会社   |
| 理事 | 十倉 雅和 | 岩田 圭一 | 住友化学株式会社   |
| 理事 | 倉井 敏磨 | 藤井 政志 | 三菱ガス化学株式会社 |

## 第2号議案 2019年度事業計画案及び収支予算案の件

次に議長の指示により、渡辺専務理事が、2019年度事業計画及び収支予算の各案は、3月11日開催の総合運営委員会、3月13日開催の審議委員会、3月15日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、その内容についての説明を行いました。

後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

## 閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第28回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力を感じ閉会を宣言しました。

## 第28回定時総会における 淡輪会長挨拶

昨年5月に会長に就任しましてから、「操業および製品にかかわる安全の強化」、「新たな価値の創造と持続可能な社会の構築への貢献」、「社会とのコミュニケーション強化」という3つのポイントに沿って、幅広い施策を推進してまいりました。

諸施策の全体像につきましては、「2018年度 事業報告書」に記載されておりますが、世間の関心の高さもあり、特に強く意識したポイントとしては、「持続可能な社会の構築への貢献」ということになろうかと思えます。

### ■海洋プラスチック問題への取り組み

中でも、海洋プラスチック問題につきましては、この1年の間にグローバルな環境課題として世間の関心がますます高まりました。本問題に対応するため、昨年9月に43企業7団体を構成メンバーとする、海洋プラスチック問題対応協議会(JaIME)が発足しました。

JaIMEは、「情報の整理と発信」、「国内外動向への対応」、「アジアへの働きかけ」、「科学的知見の蓄積」という4つの活動方針を掲げ、着実に施策の企画立案、実行を進めております。大きな進捗としましては、活動方針4つ目の「科学的知見の蓄積」に対応し、「エネルギーリカバリーの環境負荷評価」を行い、その結果を本年5月14日に公表いたしました。

循環経済の確立には、廃プラスチックを有効に利用することにより、環境負荷を低減させていくことが重要な鍵となります。マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、エネルギーリカバリーといった手法がありますが、それぞれが環境に与える負荷のレベルを比較する、という観点から科学的に客観評価を行い、位置づけを適切かつ明確にすることが必要と考えられます。

検証の結果、エネルギーリカバリーによる環境負荷低減効果は、その変換効率が高いものであれば、マテリアルリサイクルによる効果と比べても劣るものではないことが分かりました。今回の評価結果については、比較評価の考え方や手法について国際的に認識されるよう、着実に発信をしていきたいと考えております。



### ■地球温暖化問題への取り組み

海洋プラスチックゴミ問題とともに世界的な関心が高い問題として、地球温暖化問題がございます。

日化協では、日本経団連のもとで2013年度から開始した「低炭素社会実行計画」に会員及び賛同企業にご参加いただき、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでおります。

当初の目標は、2005年度を基準年度とし、2030年度においてBAU比200万t削減としておりましたが、直近の2017年度実績は573万tの削減となり、3年連続で2030年度目標を達成いたしました。そこで、化学業界が一丸となり更なるCO<sub>2</sub>削減を進めるため、目標の見直しに着手し、本年3月に新目標を決定、公表いたしました。新目標は、2030年度においてBAU比650万t削減、絶対量679万t削減を目標値とし、かつその両方の達成を目指すというものです。

絶対量指標管理を導入することは、BAU比目標を達成してもCO<sub>2</sub>排出の絶対量が増えてしまうケースに対しても歯止めをかけることになり、これまでのBAU比指標のみの目標と比べて次元の高い目標となります。また、パリ協定の絶対量目標達成に資する目標であり、化学産業の取り組む姿勢を分かりやすく示す意味からも、大きな転換です。

以上、「持続可能な社会の構築への貢献」に絞ってご紹介いたしました。今年度も冒頭に述べました3つのポイントに沿って幅広い施策を展開し、化学産業の発展のために尽力してまいります。今後とも、皆様方のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 日化協三賞の表彰式を実施

5月24日(金)、パレスホテル東京において開催された日化協定時総会に先立ち、日化協安全表彰(安全最優秀賞・安全優秀(特別)賞)、日化協技術賞(総合賞・技術特別賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞・RC審査員特別賞・RC優秀賞・RC努力賞)の表彰式が行われました。今回の受賞者は以下の通りです。

## 第43回 日化協安全表彰

### 【安全最優秀賞】

昭和電工株式会社 小山事業所

### 【安全優秀賞(特別：中小規模事業所)】

旭化成メタルズ株式会社 友部工場

昭和ファインセラミックス株式会社

三井化学東セロ株式会社 安城工場

### 【安全優秀賞(特別：研究所)】

三井化学アグロ株式会社 農業化学研究所(野洲地区)

JNC株式会社 横浜研究所



## 第51回 日化協技術賞

### 【総合賞】

株式会社カネカ

『カネエースMX』の研究開発と工業化

### 【技術特別賞】

株式会社クレハ

高分子量ポリグリコール酸の製造技術開発と  
新市場開拓



## 第13回 日化協レスポンシブル・ケア賞

### 【RC大賞】

花王株式会社 SCM部門

「プロセス安全評価による防災活動」

### 【RC審査員特別賞】

三菱ガス化学株式会社

新潟工場第一製造部第一化成課

「プラントの外部腐食対策」

住友化学株式会社

レスポンシブルケア部(気候変動対応)

「持続可能な低炭素社会への新たな挑戦」

### 【RC優秀賞】

JSR株式会社 千葉工場

「JSR(株)千葉工場の安全文化の醸成活動」

徳山積水工業株式会社

「徳山積水工業(株)における自然保護活動」

三菱ケミカル株式会社 茨城事業所環境安全部

「危険予知力向上に向けた取り組みと基本操作の定着」



### 【RC努力賞】

住友ベークライト株式会社

静岡工場ビオトープ委員会

「静岡工場における環境保全とビオトープの活用による地域貢献活動の取り組み」

日産化学株式会社 富山工場

「日産化学(株)富山工場における環境保全及び気候変動対策」

# 第13回 日化協レスポンシブル・ ケア賞受賞各社の活動概要

6月13日開催の「レスポンシブル・ケア活動報告会(東京)」において、第13回日化協RC大賞・審査員特別賞・優秀賞を受賞された6社の代表の方々による受賞講演(活動内容の紹介)が行われました。



| 賞名     | 受賞者                                | 表彰テーマ                           | 活動概要   |
|--------|------------------------------------|---------------------------------|--|
| 大賞     | 花王株式会社<br>SCM部門                    | プロセス安全評価<br>による防災活動             | 花王(株)では、社内外の火災・爆発事故情報を収集、解析し、同様の事故を未然に防止する活動に力を入れている。自然発火事故防止活動では、自然発火リスクを評価する技術を開発し、花王グループ全体で対応を行った結果、国内工場の自然発火事故件数は大幅に減少した。また、暴走反応防止対策においても、新たな熱物性測定機器を適用し、独自のプロセス安全性評価システムを導入することで、事故の未然防止に取り組んでいる。これらの活動を通して、社員の安全に対する意識・能力を向上させると共に、高いレベルの安全を追求している。              |
| 審査員特別賞 | 三菱ガス化学株式会社<br>新潟工場<br>第一製造部 第一化成課  | プラントの<br>外部腐食対策                 | 日本海に面し、冬場に塩分飛来が多い三菱ガス化学(株)・新潟工場にとって、外部腐食による漏えいは保安防災上重要な課題である。本取り組みでは、発見が困難な「保温材下の配管腐食(CUI)」の発生場所を特定し、24のパターンに分類。これをもとに、腐食を発生させない保温材の施工基準を作成し、また目視検査の精度を高めることで、腐食による漏えいを削減した。本活動は、製造課のTPM活動として始まったが、工務部門、施工業者等の協力を得て、新潟工場全体の活動となり、さらに社内他工場にも展開されている。                    |
|        | 住友化学株式会社<br>レスポンシブルケア部<br>(気候変動対応) | 持続可能な<br>低炭素社会への<br>新たな挑戦       | 住友化学(株)は2010年に気候変動対応部署を設置。全社横断「エネルギー管理者会議」を発足させて省エネに取り組み、原単位大幅削減を達成。またパリ協定の2℃目標に貢献するため、2016年に温暖化対策等に貢献する当社製品や技術を「Sumika Sustainable Solutions」として認定する取り組みを開始。翌年に金融安定理事会が設置したTCFD提言を国内企業として最初に支持し、2018年には総合化学として世界で初めてGHG削減目標についてSBT認定を取得する等、持続可能な低炭素社会に向けた新たな挑戦を続けてきた。 |
| 優秀賞    | JSR株式会社<br>千葉工場                    | JSR(株)千葉工場の<br>安全文化の<br>醸成活動    | JSR(株)は、安全衛生理念に「安全は、我々にとって、何よりも優先すべき大切な価値であり、全ての活動の基盤です。日々の仕事を終え、無事に帰るといふ、当たり前前の幸せのために、安全・安心な職場作りと心身の健康作りに努めます。」を掲げている。安全活動の土台として、常に安全を意識して行動できる人材を育成するべく、安全文化の醸成活動を展開している。一例として、千葉工場では従業員の意識改革につながった活動を紹介する。  |
|        | 徳山積水工業株式会社                         | 徳山積水工業(株)に<br>おける<br>自然保護活動     | 積水化学グループの環境方針を受けて、徳山積水工業(株)では、「地域に密着したボランティア活動の推進」というトップの方針のもと、独自の自然保護活動として、2000年より「コンビナートの水瓶の源流を育む森の整備」として「積水の森整備活動」を地域や行政とともにやっている。また、その活動を軸として「周南市栄谷ヒノキ育成活動」、「周南西緑地公園整備活動」など各種自然保護活動に拡大展開し、地域社会に貢献している。   |
|        | 三菱ケミカル株式会社<br>茨城事業所<br>環境安全部       | 危険予知力向上に<br>向けた取り組みと<br>基本操作の定着 | 三菱ケミカル(株)茨城事業所では、2014年度に休業・軽微労災が8件発生。主な要因は危険予知、及び基本行動と基本操作の不足であった。危険予知は事業所の弱みを踏まえた内容を織り込んだKY研修を実施、職制と運転員との双方向の対話も実施した。また、製造現場では当たり前でありながら基準化していない内容と過去の失敗事例とを織り込んだ「基本操作集」を作成し活用した。その結果、一人ひとりの意識が変わりゼロ災が継続できる事業所となった。   |



# 2019年 安全シンポジウムを開催

2019年 第43回日化協安全最優秀賞、安全優秀賞が決定し(P4参照)、6月14日に安全シンポジウムを月島社会教育会館(東京都中央区)にて開催しました。

## 昭和電工株式会社

小山事業所 事業所長  
御所名 健司



- 小山事業所は1961年に設立し、現在ではアルミの押出製品とその加工品、及びアルミの熱特性を利用した冷却器製品を生産しています。押出製品では「大型・高難度」を、冷却器製品では今まで培った技術に新しい技術を組み合わせ、「顧客の要求(性能・コスト)に応えられる技術」をキーワードに世の中に貢献しています。
- 小山事業所の設備は古く、重量物や高温物がある中での手作業もあり、比較的災害ハザードは多い状況です。その中で、設備の本質安全化を基本に進めていますが、安全人間づくりとの両面の活動をバランスよく続け、無災害を継続しています。
- 多くの安全活動を進めると、ややもすれば活動のための活動になりがちだと思っていますので、決して受け身の活動にならず能動的な活動にすることを心掛け、安全活動にアクセントをつけながら自分たちの身の回りのハザードをみんながしっかりと認識し、「安全最優先」を実践していきたいと考えています。

## 昭和ファインセラミックス株式会社

社長 下野 正晴



- 昭和ファインセラミックス(株)は、研磨微粉を製造していた名古屋研磨材工業(株)と昭和電工(株)からの業務受託・工事請負を担っていた塩尻昭和(株)の合併により、2015年に設立された会社です。
- 安全に特効薬はなく、安全活動は、「凡事徹底」やるべきことを当たり前徹底して行うこと、これが大切であると感じています。「ヒヤリハット(HH)」「リスクアセスメント(RA)」「危険予知(KY)」を安全の3本柱として、全員参加で取り組んでいます。  
また、安全活動がマンネリにならないように、ノンテクニカルスキル教育など新しい活動も取り入れるようにしています。
- 安全は事業継続の基盤であり、製造業であり続けるための資格であることを強く認識し、安全を最優先にした経営を行い、自分の身は自分で守れるよう、従業員の危険に対する感受性を高め、しっかりと安全ルールを守り、安全で安心して作業できるような工場づくりに取り組んでまいります。

## 旭化成メタルズ株式会社

友部工場 工場長  
能勢 雅紀



- 当社はメタリック車のように金属光沢を持った塗料向けの原料である「アルミニウムペースト」を製造しています。旭化成グループの製造拠点のひとつとして1974年より操業しています。
- 2002年より導入したOHSMSと10年以上前から活発に行っている小集団活動を柱に、トップダウンとボトムアップの両面から全員参加の安全活動に取り組んでいます。具体的には、「ヒヤリハット・危険予知・指差呼称」などの日常の安全活動を地道に粘り強く続けるとともに、活動の深化を目指して、問題点の洗い出しと改善に日々取り組んでいます。
- 今後の取り組みでは、「①設備の安全性強化：本質安全に向け、駆動部・高温部・危険性物質等と人を分離できる設備への更なる改善」「②危険予知の深化：作業前危険予知を確実にかつ適切に行うべく、リスクアセスメントなどを通じた危険予知のレベルアップ」、これら2つの視点を柱に安全活動に取り組んでまいります。

## 三井化学東セロ株式会社

安城工場 工場長  
澤井 透



- 当社は、東京セロハン紙(株)として1929年に創業し、その後プラスチックフィルムを軸とした包装フィルム、産業用フィルムを手掛けた東セロ(株)が1993年に発足しました。2010年には、機能シート事業を手掛ける三井化学ファブプロ(株)と事業統合し、三井化学東セロ(株)として発足し今年90周年を迎えました。安城工場は、自動車部品等の通函や内部仕切材、引越養生、看板等に使用される発泡プラスチックシートを製造しています。
- 当工場に相応しい安全衛生活動として、少人数・小規模工場の強みを活かした安全文化・安全意識向上に全員参加で取り組んでいます。管理社員が積極的に参加し、Face to faceのコミュニケーションを大切にして距離感を縮め、風通しの良い職場になるように心掛けています。具体的な安全活動としては、安全の基本である3Sを始めとし、本社・三井化学グループの指導による他工場との交流も含めた合同安全体感研修や4R-KYT、掲示による見える化などを行っています。
- 安全はすべてに優先するをモットーに全員参加の安全衛生活動を推進して凡事徹底に努めてまいります。そして、自ら考えて安全行動できる安全文化の確立と醸成を目指して愚直に取り組んでまいります。



## 三井化学アグロ株式会社

農業化学研究所(野洲地区)

農業化学研究所長 青木 要治



- 当社は農業関連事業と生活環境事業を軸に、お客様の要望に応える薬剤とサービスを提供しています。野洲地区では、製剤化技術の確立や処方開発の他に、敷地内にある圃場や温室を活用した実用性評価試験を中心とする研究業務を行っています。
- 「安全は全てに優先する」という三井化学グループに一貫する経営方針のもと、定められたルールを厳守することを原点とする愚直な安全活動を継続しています。事故労災の撲滅を重点課題に定め、トップダウンで繰り返し安全メッセージを伝える一方、研究業務内容が多岐にわたり作業ごとに特有のリスクが潜在することから、毎朝の小集団による作業前KYの実施や自警的パトロールによる不安全箇所の抽出と改善を徹底するボトムアップ活動も推進しています。
- 今後についても、「安全は自分自身のため、家族のため、同僚のため、社会のため」であることを認識しながら、これまでと変わらぬ安全活動を継続してまいります。

## JNC株式会社

横浜研究所 研究所長

内野 正純



- 当研究所は1960年に中央研究所として設立され、液晶材料やシリコン材料などの研究開発を担ってきました。2004年からはライフケミカル分野に特化した研究所となり、2017年からは関連製品の製造も開始しました。
- 当研究所の安全活動は「安全は、会社の存続と社会貢献の基盤である」という会社の基本理念に基づき、KY、ヒヤリハット、リスクアセスメントを基本ツールとして推進しています。また、「従業員各人は常に危険性の存在を意識し、保安防災に努める」という行動方針に従い、研究所としての特性上一人で非定常作業を実施することもあり、所員の危険性に対する感度を高めるように工夫しています。具体的には、所員相互が講師になる安全教育、他所の災害報告を参考にした想定ヒヤリハットなどを実施しています。
- 研究所として無災害が継続できており、所員の安全意識が高く維持されていると考えています。今後は安全活動がマンネリ化、形骸化しないよう、危険に対する意識の向上と安全活動の最適化を進めてまいります。

## パネルディスカッション

パネルディスカッションは、鈴木安全表彰会議議長を進行役として、安全賞を受賞された6事業所の代表及び日化協常務理事の永松がパネリストとして参加し、無災害の継続をテーマに各事業所の活動の特徴、考え方や進め方について、トップの立場から注力しているポイントを中心に討議しました。また今回は無災害継続の達成において人材確保・育成と配置の視点からどのようにあるべきかを討議しました。

討議の中でトップの方々の発言にあった、「安全意識」や「危険感受性」に関して、その能力向上策など、具体的な活動を交えながら有意義な議論が行われました。

会場質問では、「トップ発信情報のフォロー」、「活動事例に対するマンネリ化防止策」など現場での切実な課題も取り上げ、討論しました。

ディスカッションの結びに永松常務理事より討議全体に対する感想として、「今回の6事業所は各々特徴ある事業内容でした。トップは数年で交代しても長期間、無災害を継続し、トップ自ら現場へ出向き、コミュニケーションをとり、トップダウン手法と事業で培ってきた現場力としてのボトムアップを一体化して運営されている共通点も良く分かりました。今日紹介いただきました活動事例を参加した皆様に広く活用していただきたい」とのコメントがありました。

最後に鈴木議長から参加いただきました皆様へ、熱心な参加に対してお礼の言葉をいただき閉会となりました。



# Responsible Care NEWS

No.92  
SUMMER

## Index

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 一般社団法人日本化学工業協会 第28回定時総会が開催されました | 2 |
| 第28回定時総会における淡輪会長挨拶              | 3 |
| 日化協三賞の表彰式を実施                    | 4 |
| 第13回日化協レスポンシブル・ケア賞受賞各社の活動概要     | 5 |
| 2019年 安全シンポジウムを開催               | 6 |
| RC委員会だより                        | 8 |

## R C 委 員 会 だ よ り

☆会員動向 (会員数：115社 2019年7月末現在)

### ☆行事予定

9月5～6日 リスクコミュニケーション研修(千葉)  
9月6日 第6回SDGs部会  
10月18日 勉強会

### 表紙写真の説明

#### 日本有数の幻想空間

堺泉北臨海工業地帯の夜景は、日本有数の幻想的な工場景観と評され、大変人気があります。街の中では、夜景写真を車両にプリントした「ラッピング列車」が2016年から運行されており、「走る! 工場夜景」として多方面からの反響を呼んでいます。

三井化学株式会社提供

### 編集後記

●● 今年の梅雨は、西はカラカラでしたが、東は低温と日照不足が続き、昨年より30日も遅い梅雨明けとなりました。ところが、梅雨が明けるといきなりの酷暑到来となり、暑さが一際体に応えます。欧州でも今年は異常な熱波に2度も襲われており、ドイツでは38.6℃に達して73年ぶりに最高気温の記録が塗り替えられた他、フランスのパリでも70年ぶりに記録が更新されて42.6℃になり、フランス南部のモンペリエ近郊では46.0℃という、アフリカの砂漠並の気温になったところもあったそうです。気候変動対策は待ったなしの状況と言えそうですね。

RC NEWSのバックナンバーは、以下のアドレスにてご覧いただけます。

▶ <https://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/rc-news-page>